

としよかんだより 77号

弘法大師が詠んだ和歌

高野山大学教授・図書館長 下西 忠

歌人藤原定家(一一六二―一二四一)は、後醍醐天皇の下命により文暦元年(一二三五)九番目の勅撰和歌集、つまり『新勅撰和歌集』を完成させました。その歌集では、承久の乱(一二二一)で隠岐島や佐渡島に配流された後鳥羽院や順徳院の和歌は結果的に政治的な妥協で定家は除きましたが、後日、定家が関与した有名な『百人一首』において両院の和歌を撰入したのは、芸術を第一と考える定家に意地があつたのではないかと思われまます。

さて、定家は弘法大師の和歌を巻十「釈教歌」の巻頭にすえました。釈教歌とは、平易に言えば、仏教関係の歌ということになりますが、平安時代後期から勅撰集の部立(分類)に正式にとり入れられたものであります。

土佐国室戸といふ所にて

法性のむろとときけど我すめばうるの波かぜよせぬ日ぞなき (五七四)

歌意は、「ここ土佐の国室戸は、法性の無漏と聞いているが、私がここに住んでみると、室戸は南の海辺だけに無為を望むことはできず、有為の波風がつねに寄せてくるばかりで、静かならざるばかりであるよ」ということになると思います。趣向は「むろと」に「室戸」と「無漏と」を掛け、さらに「無」と「有」を対照させるところにあります。室戸という所の名を無漏にとりなして、法性無漏と名づける所ではあるけれども、私が住んでみると、ここにも世上の風波は静かならずということを詠んだものと思われる。平安時代はじめの歌の特徴をよくあらわしている理知的な和歌といえるでしょう。「法性」は真如(真実のすがた)の意で、無漏(迷いを離れていること。煩惱のない境地)をみちびくいわば枕詞のような働きであると思います。「有為」とは「無為」の対義語で、さまざまな因縁によって生じた現象の意。「いろは歌」にもある「有為の奥山」や「有為転変」などと使います。ちなみに寂本の『四国遍礼霊場記』には、五句を「たたぬ日ぞなき」として紹介されています。

第3回高野山大学図書館戸田文化講座

「天野丹生都比売神社本殿平成のご造替について」



十月十日(木)高野山大学3階308号室に
おきまして第3回戸田文化講座が開催されました。
講師は和歌山県文化財センター技師の結城啓司先生
学外からの参加者を含め十数名のご参加がありました。



第2回高野山大学図書館茶話会

「戦国武将の文事―木下長嘯子(豊臣秀吉の甥)の和歌―」



十一月二日(土)図書館閲覧室におきまして
第二回高野山大学図書館茶話会が開催され
ました。
裏千家茶道部の方が点てたお茶を飲みながら
図書館長の下西 忠先生の講演を拝聴できる
とても貴重な機会でした。

亀位さん 後藤田さん



木下部長
裏千家茶道部の方々

2013年 11月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

2013年 12月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

	9:00-21:30		13:00-21:30
	9:00-17:00		休館日

第4回戸田文化講座
「読書の町、高野町をめざして」

日時：11月19日(火曜日)

17時～18時30分

場所：高野山大学本館3階308号教室

講師：中島紀生(高野町副町長・

和歌山県公共図書館協会理事)

橋本奈理加

(高野町中央公民館図書室司書)